

令和4年3月1日 メルボルン交流抄

特別編：天皇誕生日レセプション

2月17日の朝、メルボルンでは雨がひとひと降り出したものの、午後からは快晴。暑くもなく寒くもない天皇誕生日祝賀レセプションの開催には最高の日となりました。

この日のために会合を何度も行い、特に COVID の対策に万全を期すようにしました。庭のスペースをフルに活用して、人の流れを作るように工夫を凝らしました。そして、直前のスタッフ（スポンサー、ボランティア関係者の方々を含む）への全体ブリーフの際に、①おもてなしの精神、②落ちついた心構え、③Team Japan in Melbourne としてのチームワーク、を強調して、気を引き締めるために全員で一本締めをしました。

いよいよ開宴。玄関でのレーシングラインを作らずに、庭でお客様を対応することで、人の流れを作りました。1年間当地で培った多くの方々との交流により、260名を超えるお客様のご来場があり、皆様に日本の食、お酒、お箏、弓道、茶道、生花、日本画など、五感を使って日本を堪能していただきました。

まず、ブランドン・リーさん演奏のすばらしいお箏、生花インターナショナル・メルボルン（矢崎智恵子先生、デイリー智恵美さん）の華麗な生花、平松礼二先生のジャポニズムの日本画を楽しんでいただきました。式は、メルボルン弓道協会（ギャビン・ダウズ四段、千葉みゆき四段、デズモンド・クロークさん、ダニエル・ベリーさん）による巻藁射礼の儀式で始まりました。オペラ歌手の鳥居彩良さんの日豪国歌斉唱。総領事の挨拶、ビクトリア州首相代行のステイブン・ディモポロス首相政務官、野党自由党を代表してブラッド・バツティン影の警察大臣が挨拶して、乾杯によって宴もたけなわになりました。

裏千家淡交会メルボルン協会所属の方々（グリーンウッド律子さん、長坂章子さん、グールド靖子さん、キム・リーさん、ホームズたまみさん）の協力により実施された茶道のデモンストレーションは雅な中にわび・さびを感じさせるものでした。

食事は大津尚也料理人が腕を振るって、当地の食材を活かした日本食を思う存分振る舞いました。

岐阜県、京都府からは地元製品の紹介、試食・試飲が行われました。特に古田肇岐阜県知事からは前日にオンラインで直接激励が入りました。提供いただいた飛騨牛、いちご（華かがり、美濃娘）、お酒などで大いに岐阜県のPRを行いました。飛騨牛は、農林水産省から日本食普及の親善大使の称号を授与されている荒金育英シェフが炭火で調理し、グルメで知られるメルボルンの人々を虜にしていました。京都府の宇治玉露や八ツ橋も好評でした。

ブースで注目されたのは、シドニーから駆けつけてくれた GLAIR の地方都市紹介の他、2025年メルボルン・大阪ダブルハンド・ヨットレースの紹介でした。2025年の[大阪関西 EXPO](#)にあわせて開催される予定です。

公邸の入口ではトヨタのミライ2（水素燃料電池車）、三菱自動車のエクリプス（プラグイン電気自動車）の展示。真っ赤でスポーティーなデザインの両車は多くのゲストを魅了しま

した。アラン・フィンケル博士（豪州政府低排出技術特別顧問）は自身の青いミライ2に乗って来場し、青と赤のミライ2が同時に揃うのは非常に珍しいとのことでした。

日系企業のキリン、アサヒ、伊藤園、ヤクルト、小林製薬からも自社製品を提供していただき好評でありました。

御協賛・御協力していただいた各関係者・関係企業に心より御礼申し上げます。

最後に、多くのオーストラリアの参加者の方々から、非常に楽しいかつ実りのあるレセプションであったとの感謝の意が表明され、メルボルンの領事団の面々からは、COVID 以来2年ぶりの大型レセプションを他国に先駆けて日本が開催したことに感謝と尊敬の意を表するメッセージが多数寄せられました。

無事に終えた安堵感とともに、当館関係スタッフの労をねぎらい、また来年にむけて日豪間の交流を深化させていきたいと思っております。



